

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



# 「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和5年12月1日（金） 発行人：校長 森内 秀学

## 社会のつくり手 育成中

特別活動の学習で子どもに身に付けさせたい重要な力の一つに、「自治力」があります。「自治力」とは、自分たちで決め、守り、変えていく、民主主義の根幹となる力です。

では、その力はどのように育めばよいのか、育まれた子どもはどんな姿になるのか…。そんな問いに答えるべく、5年2組で特別活動の授業公開が行われました。西彼杵郡教育研究会特別活動部会の代表授業です。



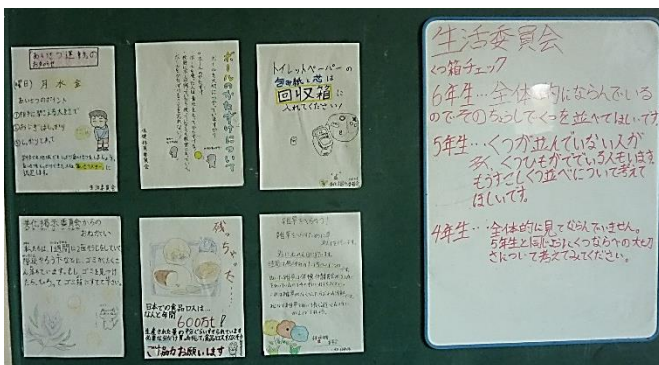
この日の議題は、総合的な学習で計画している留学生との交流を、共に笑顔で仲良くできるようにする企画についてでした。

会の司会も板書も全部子ども。中でも司会者の、パソコンで意見を募り、モニターを通して集約の方向性を伝える姿や、少数意見を大切に扱いながら、納得のいく合意形成に導いたりする姿は見事でした。

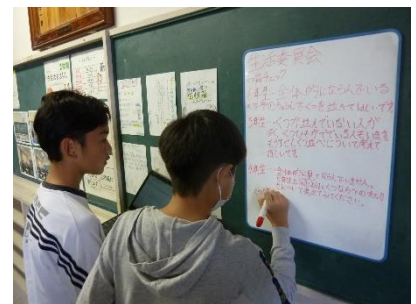
おかげで子どもたちは、誰一人お客さんになることなく、活発に意見を出し合っていました。花田先生の出番は、なんと最後の1分だけ。いかにこれまで、子どもの自治力を高める指導を行ってきたかがお分かりでしょう。

子どもにとって、学級は社会の縮図です。学級をよりよくする中で育まれた自治力は、今後、担い手側として社会に飛び込んだ時、大いに発揮されていくはずです。

このような指導が行われているのは、花田学級だけではありません。右の写真は、ちょうどその日の委員会活動で、6年生が掲示板を作成している様子です。



小さくて見えにくいですが、学校をよりよく



するためのいろんなアイデアが、各委員会から発信されています。こうした自治力が育っているのは、本校の全教職員が、子どもに、達成感や貢献感を味わえるようなか

かわりをしているからです。「自分でやり遂げた」「自分も役に立てた」という感覚と経験の積み重ねは、自分たちの社会を自分たちで作っていかうとする「社会のつくり手」としての意識の形成につながっていきます。家庭や地域でも、一緒に育んでいきましょう。